

育苗作業開始

01

4月22日～5月1日まで、当JA青年部が育苗センターにて播種作業を行った。去年まで苗の移動作業を午前中に行っていたのだが、今年は午後に行つた日を設けた。午後に行つ事によりビニールハウスが温まり、温度の変動が少ないことで苗の生育不良に繋がるストレスが軽減することが予測される為である。

青年部は熱い中声をかけ合い、今年も「青天の霹靂」全量一等米を願いながら一生懸命取り組んでいた。



育苗マットを続々と補充する青年部員達

開薬作業本格化

02

5月4日から、当JA本所にて開薬作業が始まった。

今年度から新しく中型全自動薬採取機を2台設置した。従来機より薬以外の部分を排出する際の手間が省け、さらに花補充口が大きくなったため、花投入をスムーズに出来る。多くの組合員の方々に利用して頂き「早くていい」「面倒な作業がなくていい」等の声を頂き評判は上々だ。今まで使っていた機械を含め計4台が、フル稼働で開薬作業を担っていた。

SSSに装着する人工授粉機を使用する方法が多くなっている事から、大量の花粉が必要となっており、開薬所は約で埋め尽くされていた。



新型機の感触を確かめる組合員

相馬には初めてが
いっぱい

03

5月9日、組合員3人の園地に弘前大学人文社会科学部2、3年生9人が訪れ、生活様式などを学んだ。この日は組合員の方に細かい説明を受けながら、摘花作業を行った。また、薬からどのように花粉をとっていくのかとも疑問だったようで、説明に驚いた様に反応していた。

学生たちはこれから秋のリンゴ収穫期まで毎週木曜日に農家を訪れ、相馬地区の宵宮などにも参加し、相馬地区のイベントに多く足を運びたいと意気込んでいた。

相馬庁舎には訪れている大学生のプロフィールが紹介されている。



開薬所にて花粉になる過程の説明を聞く大学生

黒星病の
抑制に向けて

04

5月16日、当JA本所にて第2回共防連委員会を開催した。

黒星病の子のつ胞子感染が継続中の為、今後も油断せず警戒し、雨前防除を徹底していく事を再確認した。また、モモシクイガやアブラムシ等の病害虫の発生にも注意するよう説明された。

散布計画が各共防によってずれ込んでいることから、参加者は自分に当てはまるパターンについてしっかりとメモをとっていた。

これからも黒星病の重点防除時期であるということで薬剤散布の際の散布量、散布スピードには再度注意して防除に取り組んでもらいたい。



しっかり資料に目を通し、これからに備える

topics

害虫防除にも注意を

05

5月17日、第2回巡回講座が開催された。第1回よりも天候に恵まれ多くの組合員が参加した。

黒星病重点防除期間中の開催という事もあり、説明は散布計画に比較的多く重点を置いて説明され、中管内でも黒星病の発病が確認されていることを耳にし、再び気を引き締めていた。

また、最近害虫の発生報告が出てきたことから、これからの対応や適切な薬剤の散布などが付け足された。殺虫剤により防除効果が違つ為、いくつか殺虫剤の種類があげられ再確認していた。



多くの生産者が参加した講座会場

topics

園児たちの野菜畑準備開始

06

相馬こども園で野菜の栽培を行う為、16日に当JA女性部が畑周りの草とりと施肥を行い、17日にグラウンドの草刈りと畑の耕起を青年部が行なった。2日間とも気温が高い状態であったが、汗をかきながらも、楽しく作業していた。作業中は園児達が窓越しに大きな声で応援してくれ、部員たちの作業を後押ししてくれた。

今後、女性部員と共に野菜の定植や病害虫防除などを行いなながら、収穫まで応援していく。



子供たちの見守る中、気合が入る

topics

今年は牡丹斑からスタート

07

5月19日、ライスロマンクラブが田植えを開始した。試運転では、ヤンマーやクボタの人も立会い、事故に繋がらない様入念に点検したあと、正常に田植え作業を行った。

毎年東部班から始まり牡丹斑へ作業が移るが、今年は牡丹斑からスタートした。これによりお互いの班が田植え機の洗浄の仕方などを経験し、この先組織としての強化を図っていく。



確認し合いながら作業を行う

topics

新型選果機の起工式行われる

08

5月20日本所フルーツステーションにて選果機の起工式が行われ、多くの関係者が出席した。玉串奉奠が行われ、これから事故などが無いように願いを込めていた。

これから機械の設置が始まり、試運転、調整を重ね、今年度のリングの入庫に間に合うよう作業が行われる。また、最新の機械の導入によって、より効果的に選果が行われることから、生産者の方に喜んでもらえるような精算を出すことを目標に取組んで参ります。



関係者一同無事施工が終わることを願う